すたあとらいん

第124号　社会福祉法人 青い鳥会
2025.01.25

[HP] https://www.hikogaku.com　[E-mail] aoitori@hikogaku.com

特集

ICT化に向けて
ーさらなる利用者支援の向上を目指してー



目　次

・特集　ICT化に向けて …… P2 ～ 3
・第52回　彦根学園祭　会い♡あいフェスティバル …… P4
・事業所ピックアップ …… P5
・インフォメーション …… P6 ～ P7
・HP紹介　編集後記 …… P8

特集

ICT化に向けて
ーさらなる利用者支援の向上を目指してー

タブレット・バイタルアプリ

記録業務の効率化・余暇支援の充実
データ化による健康管理

桝井：タブレット導入の経緯を教えてください。

田中：全館Wi-Fi導入前は、パソコンを使用できる場所が限られていた為、一部の記録は手書きで記入し、夜勤者がパソコンへ入力を行っていました。タブレットを使用し記録入力を行うことで、所定の場所ではなくても、利用者が過ごしている場所で利用者を見守りながら記録を記入する事ができるようになりました。また、夜勤者がパソコンで手書きの記録を入力し直す業務が無くなりました。



桝井：タブレットを導入したことで、業務の効率化や夜勤者の負担軽減にも繋がったのですね。

田中：はい。記録入力の業務が効率化されたことにより、その分利用者支援に時間を当てることができるようになり、利用者支援の充実へと繋がっています。



桝井：タブレットは記録入力業務以外はどのような場面で活用されていますか？

田中：タブレットからYouTubeで利用者のリクエストの曲を検索し流したり、寮内でカラオケや誕生日会用のBGM等を流すこともでき、様々な場面で活用をしています。

桝井：余暇支援でもタブレットは活躍をしているのですね！
では、次にタブレットに入っているバイタルアプリについて教えてください。

田中：専用の体温計、血圧計にて測定をすると、Bluetoothによりタブレットのバイタルアプリに自動で登録がされます。今までは、紙に同じ様式のものを印刷してファイルに綴じて記録する方法でバイタル記録を行っていましたが、自動でデータ化されることで利用者の健康状態(バイタル)の把握がしやすくなりました。また、過去の記録をデータとして振り返るのもスムーズになりました。

今後もICTの導入が進化すれば、職員が利用者一人ひとりと関わる時間が増えるので、利用者さんに寄り添う時間も多く持てるようになると感じています。

全館Wi-Fi

業務の効率化・利用者支援の向上・福利厚生

桝井：青い鳥会に全館Wi-Fiが導入されましたが経緯を教えてください。

白木：先にも述べたように、これまではパソコン業務は職員室でのみ行えるものでした。それが全館Wi-Fiの導入により、食堂やホールで利用者さんたちの安全を見守りながら、あるいは日中活動を行いながらでも日々の記録を入力することが可能となり、パソコン業務をスリム化することが出来ました。



桝井：利用者さんを見守りながらパソコン業務を行う事ができるようになり、業務の効率化に繋がったのですね。

白木：全館Wi-Fiが導入されたことにより、様々なICT機器がどこでも使用できるようになりました。
また、各種委員会のアンケートや研修動画を視聴してレポートを提出する機会もある為、自身の携帯電話を使用する際にも安心です。
福利厚生の充実や**学び**、ペーパーレスにも繋がっていると感じます。

ICTとはInformation and Communication Technology(情報通信技術)の略で、インターネットやアプリケーションなど、情報通信機器を用いて行うコミュニケーションを実現する技術のことです。
青い鳥会では。さらなる利用者支援の向上や業務の効率化、職員の負担軽減をもとにＩＣＴ化を進めてまいりました。
今回は現場職員に各機器の導入の経緯や感想をインタビューしてみたいと思います！


インタビュアー
生活支援員
桝井　恵利華


生活支援員
田中　健人


生活支援員
白木　祐子


生活支援員
橋本　桂

クリアトークカム(インカム)

利用者支援の向上・業務の効率化・職員の負担軽減

桝井:クリアトークカム(インカム)の導入の経緯について教えてください。

白木:施設内での連絡や情報共有効率化を目的に導入されました。
以前は内線電話を使用し連絡を行っていましたが、どこからでも会話が可能の為、速い情報の共有や把握が可能です。インカムを使用することで１対複数での会話が可能であり、正確な情報の伝達を行う事が出来るため、職員全体での情報の共有がしやすくなりました。



桝井:情報共有の効率化へと繋がったのですね。情報共有の効率化以外に導入して変わったことはありますか？

白木:全体で協力体制を取りやすくなり日々の支援に活用されています。トラブルが発生してもすぐにヘルプ応援を出すことが可能なため安心して利用者一人ひとりに**丁寧な支援**を行う事が出来るようになりました。
眠りスキャンとも連動しており夜間の他寮の利用者さんの様子も把握することが出来、急な対応時にも迅速に支援することが出来るようになりました。

眠りスキャン

利用者支援の向上・職員の負担軽減



桝井:次に眠りスキャンについて教えてください。

橋本:ベッドに設置された見守りセンサーにより、睡眠時の状態をリアルタイムで確認する事ができます。入眠状態、呼吸、心拍数、在離床等の情報をパソコンで確認することができ、利用者の眠りの状況や**健康状態のいち早い把握、夜勤職員の身体的、精神的負担の軽減**を図る事ができます。

桝井:眠りスキャンが導入され、どのように変わりましたか？

橋本:障害特性上、なかなか自分で不調を伝える事ができない利用者も少なくありません。また、利用者の高齢化が進み、健康に特に注意が必要な利用者も多く生活されています。
何か異変があった際にはセンサーが察知し、パソコンやインカムへ通知されます。入眠中の異変には気付きにくく、職員も不安を抱える中、眠りスキャンが導入されたことで、**利用者、職員の大きな安心**へと繋がっています。

VPN (Virtual private network)

業務の効率化・情報共有

桝井:VPNについて教えてください。

橋本:VPNとはVirtual private networkの略でインターネット回線上に仮想の専用ネットワークを構築し、それぞれの事業所のサーバーにあるファイルを共有する事が可能となります。
VPNを使用することで、仮想専用回線として外部を遮断する技術が加わるため、安全性が増し、大切な情報が外部からしっかりと守ることができます。また、法人内の様々な事業所や部署から、同じファイルにアクセスすることが出来るため**円滑な情報共有**が可能となりました。ペーパーレス化や**仕事の効率アップ、様々な部署との情報共有や連携の強化**にも繋がったと感じています。



事業所 PICK UP

彦根学園

第52回　彦根学園祭「会い♥あいフェスティバル」

10月６日(日)に第52回　彦根学園祭会い♡あいフェスティバルを開催いたしました。

今回のステージ発表では、「2025わたSHIGA輝く国スポ障スポ」のイメージソングを歌っておられる手話シンガーソングライターyokkoさんのステージもあり、最後には彦根学園の「歌のサークル」の利用者とのコラボレーションもありました。



その他、「近江笑人」によるよさこい演舞、「ホロイムア・ステージクリエーターズ」の楽器演奏、「彦根古城太鼓」による和太鼓演奏、「つばきはらファクトリー」の利用者発表によりステージ発表が盛り上がりました。







今回新たに参加していただいた模擬店もあり、どれを食べようかと来場者や利用者の方も悩まれたのではないかと思います。

当日は、天候に恵まれすぎて暑い日でありましたが多くのボランティアの方々の協力により無事開催することができ、彦根学園の利用者の方々にとっても楽しいひとときを過ごすことが出来たのではないかと感じています。

学園祭実行委員長　濱岸　英徳



“おひさまデパート”を開催しました

11月15日、株式会社ウェルケアビューティー様による訪問お買い物会“おひさまデパート”を彦根学園にて開催いたしました。





普段は日中活動に使用している活動訓練等がデパートに早変わり！

利用者の皆さんは、気に入った服を手に取り試着し購入したり、好きなおやつを購入したりと、お買い物を楽しまれていました。

彦根学園　桝井　恵利華

愛荘町川原事業所

第2回　秋祭りを開催しました



川原事業所では、11月４日に第２回秋祭りを開催致しました。天候にも恵まれ無事に終えることが出来ました。バルーンアーティストや飲食店のご協力、彦根学園からの応援職員のおかげでご来場いただいたお客様からは「楽しかったです！」というお声をたくさん聞く事が出来ました。

他にもバザーの開催、染め物体験、制作品の販売、作品展示、縁日コーナーを行いました。



制作品の販売に向けてすら～ぶ利用者さんには染め物活動に取り組んでいただきました。たくさんの染料からお気に入りの色を選び、職員と共に染める作業をしました。色も柄も違う世界に一つだけの作品はご来場いただいたお客様から好評でした。

また、飾りつけのためか～む利用児さんには折り染め活動に取り組んでいただきました。

次年度、第3回の秋まつり開催も楽しみにお待ちください♪

愛荘町川原事業所　武山　千帆

せいふう

せいふう運動会を開催しました



せいふうでは、9月20日に「第15回せいふう運動会」を開催しています。

利用者のご家族の方々を招いての開催となっています。選手入場では利用者で順番に聖火のバトンを繋ぎ、聖火台に火をともしスタートしました。

黄色のハチマキの「ミニオンズ」チームと、赤色のハチマキの「ぺこちゃんず」チームに分かれています。



競技種目として利用者の強みを生かして楽しめるように、「的たおし」「狙え大物！大漁！せいふう丸」「ボッチャ」にそれぞれ参加しました。運動会本番に向けてたくさん練習を重ね、本番では皆さん持てる力を存分に発揮して競技を楽しんでいる様子でした。

ご家族の方々にも参加してもらい、笑顔あふれる運動会となりました。

せいふう　石井　滉平

ー お知らせ ー
インフォメーション

第43回　全国盲重複障害者福祉施設研究大会に参加しました





10/7～9にかけて福井県で開催されました、令和6年度全国盲重複障害者福祉施設研究協議会施設長会(10/7)と第43回全国盲重複障害者福祉施設研究大会(10/8.9)に参加してきました。彦根学園からは私の他3名の職員と家族会役員様4名が参加しております。施設長会では、各施設の近況報告を主題としています。多くの施設が昨年5月の新型コロナウイルス5類移行をうけ、外出や一泊旅行等の施設行事をコロナ禍以前の様に戻し、利用者の笑顔や楽しまれている姿が見られた、活気が戻ってきたとの報告がありました。その一方でコロナ禍の数年間で、利用者の高齢化や職員の入れ替わり等があり、以前には無かった課題に直面しているという報告が複数ありました。また、利用者の高齢化に伴う疾患や誤嚥等のリスク、今後の看取り支援のあり方等、参加施設の多くが共通の課題を抱えており、今後、施設間での情報共有を図り課題の解決に繋げていきたいと思います。10/8.9の研究大会では今大会テーマの「個別支援の向上を目指して」に沿った基調報告、記念講演等の他3分科会に分かれて計6事例の発表と家族会総会がありました。彦根学園からはそれぞれの分科会に分かれて参加し、貴重な事例発表を聞く事ができました。数年ぶりに盲重複研の全国大会に参加し、改めて盲重複研だから共感できる事を再確認し盲重複研の繋がりの大切さを再認識できました。R8年は彦根学園が主管施設となります。現在、旅行会社と打ち合わせを始めた段階ですが、今回大会の様に盛会な会を開催できるよう準備を進めて参ります。

施設長　　重森　健

採用ブースリニューアル



青い鳥会では、人材育成やリクルート活動に力を入れています。就職説明会に参加する機会も多く、青い鳥会をより多くの方に知っていただくため、採用ブースで使用する机カバー、椅子カバー、タペストリーを作成いたしました。青い鳥会のイメージカラーである青を基調とし、タペストリーや椅子カバーには虹や空を配置し、爽やかなイメージの物となっています。

また、採用ブースでは青い鳥会のPR動画も流し、より多くの方に障害者福祉の魅力を知っていただけるように努めています。現在、リクルート用パンフレットの制作も進めています。

今後も人材育成、人材確保に力を入れ、より良い利用者支援を提供できるように努めてまいります。

広報･リクルート委員会　　桝井　恵利華

知ハン協スポーツフェスティバルに参加しました

10月17日竜王町総合運動公園ドラゴンハットで開催された、滋賀県知的ハンディをもつ人のスポーツフェスティバルに参加しています。競技では障害をもった方がいろいろなスポーツに挑戦し、皆さん楽しんで参加しておられました。彦根学園の利用者だけではなく他施設の利用者も参加され交流しています。スタッフの方が音をたてたり声をかけたりして視覚障害者でも楽しむことが出来、利用者の皆さんとても楽しそうに参加されていました。



生活支援員　　小川　祐毅

滋賀県知的障がい者教育福祉復興大会での即売



10月19日滋賀県知的障がい者教育福祉復興大会での即売に参加しました。日中活動で制作している作品が売れた事を利用者に伝えると嬉しそうな表情を見せながら買っていただいた方に対して「ありがとう」と言う姿も見られています。引き続き、普段の日中活動での作品作業への意欲に繋げていただければと思います。

生活支援員　藤林　嵩也

彦根学園　合同外出

10月18日くすのき寮・かしのき寮合同で、亀の井ホテルの貸切風呂へ出かけています。いつもとは違う入浴の雰囲気の中、利用者の中には、テンション高く、声を出して機嫌よく過ごされる方もいました。いつもとは違う露天風呂にゆったりと浸かり秋の風を感じながらのんびりと楽しい時間を過ごすことが出来て、利用者の方も良い気分転換になったと思います。

生活支援員　　濱岸　英徳



Instagram

AOITORI_KAI

Instagram更新中です！

青い鳥会で職員が見ている光景や、イベントに合わせたホットな情報等をいち早くお届けしています。アカウント名は「aoitori_kai」、ネームタグはこちら。

最新情報を投稿していきますので、是非、みなさんフォロー＆コメントをお願いします!!

編集後記

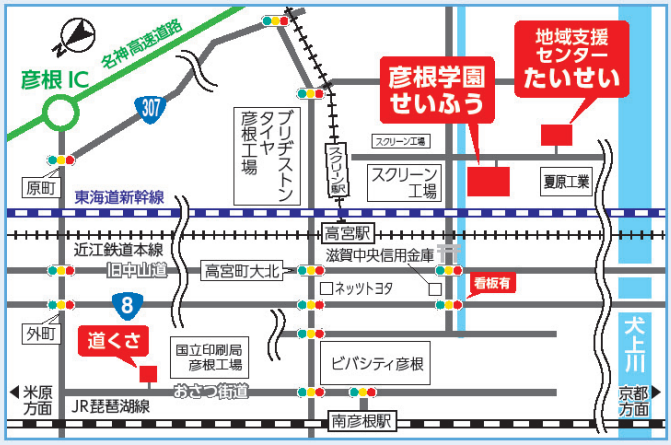
新年あけましておめでとうございます。旧年中は様々な方に支えていただきありがとうございました。年が改まったせいか、厳しい寒さの中にも清々しさが感じられます。

さて、今回はICT化に向けた取り組みを特集いたしました。お読みいただきいかがでしたか。

彦根学園をはじめ、法人の各事業所で運動会や学園祭など様々なイベントを開催しています。私の所属するあじさい寮でも、先日、福井県へと外出に行ってきました。名物のソースかつ丼を食べ、海沿いをドライブし、利用者職員共に笑顔のあふれる1日となりました。

このすたぁとらいんを通じて、少しでも皆様に笑顔をお届けできたらと思います。最後までお読みいただきありがとうございました。

社会福祉法人 青い鳥会が行う事業





滋賀県彦根市高宮町2671番地

□法人事務局（彦根学園内）

◎盲重複障害者支援施設 彦根学園
生活介護・施設入所支援・短期入所（児者）・日中一時支援

滋賀県彦根市高宮町2672番地

◎重症心身障害者通園施設 せいふう
生活介護・短期入所・日中一時支援

滋賀県彦根市高宮町2690番地２

□地域生活支援センター たいせい

◎グループホームたちばなE/W
共同生活援助・短期入所

◎相談支援事業所 てんしん
指定特定相談支援・障害児相談支援

滋賀県彦根市岡町30番地２

◎日中一時支援事業所 道くさ
日中一時支援

滋賀県愛知郡愛荘町川原702番地

□愛荘町川原事業所

◎生活介護事業所 すら～ぶ
生活介護

◎放課後等デイサービス事業所 か～む
放課後等デイサービス・日中一時支援

発行
社会福祉法人青い鳥会　彦根学園　〒522-0201滋賀県彦根市高宮町2671
【TEL】0749-22-2266　【FAX】0749-22-9767　【e-mail 】aoitori@hikogaku.com
印刷:近江印刷（株）